

食品安全情報（微生物） No.1 / 2018（2018.01.05）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

目次

[【米国疾病予防管理センター（US CDC）】](#)

1. 複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査
2. ペット店の子犬との接触に関連して複数州にわたり発生している多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク（2017年12月13日付更新情報）

[【カナダ公衆衛生局（PHAC）】](#)

1. 公衆衛生通知：ロメインレタスに関連して発生している大腸菌感染アウトブレイク（2017年12月28日付更新情報）

[【欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE）】](#)

1. 食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF：Rapid Alert System for Food and Feed）

[【欧州食品安全機関（EFSA）】](#)

1. 伝達性海綿状脳症（TSE）の2016年のサーベイランス結果に関する欧州連合（EU）要約報告書

[【英国食品基準庁（UK FSA）】](#)

1. 食品衛生ランク付け方式が英国の食品安全システム近代化計画の中心

[【デンマーク国立血清学研究所（SSI）】](#)

1. デンマークにおける2014～2016年の赤痢の発生状況

[【オランダ国立公衆衛生環境研究所（RIVM）】](#)

1. 動物の糞尿の微生物学的健康リスクについての探索的研究

[【ProMed mail】](#)

1. コレラ、下痢、赤痢最新情報
-

【各国政府機関等】

- 米国疾病予防管理センター (US CDC: Centers for Disease Control and Prevention)

<http://www.cdc.gov/>

1. 複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクを調査

CDC Investigating Multistate Outbreak of *E. coli* O157:H7 Infections

December 28, 2017

<https://www.cdc.gov/media/releases/2017/s1228-e-coli-outbreak.html>

米国疾病予防管理センター (US CDC) は、複数州の公衆衛生当局および米国食品医薬品局 (US FDA) と協力し、13州にわたり発生している志賀毒素産生性大腸菌 (STEC) O157:H7 感染アウトブレイクを調査している。これまでに報告されている患者計 17 人の州別の内訳は、カリフォルニア (3 人)、コネチカット (2)、イリノイ (1)、インディアナ (1)、ミシガン (1)、ネブラスカ (1)、ニューハンプシャー (2)、ニューヨーク (1)、オハイオ (1)、ペンシルバニア (1)、バージニア (1)、バーモント (1) およびワシントン (1) である。患者の発症日は 2017 年 11 月 15 日～12 月 8 日である。カナダでも複数州にわたる STEC O157:H7 感染アウトブレイクが発生しており、カナダ公衆衛生局 (PHAC) が調査している。

米国の患者とカナダの患者との関連について情報を得るため、米国の患者の原因菌について全ゲノムシーケンス (WGS) 解析が行われている。暫定的な結果によると、両国の患者の原因となった大腸菌株は遺伝学的に相互に近縁であり、両国の患者は感染源が共通である可能性が高い。

カナダでは、PHAC がアウトブレイクの感染源としてロメインレタスを特定した。米国では、州・地域の公衆衛生当局が、患者に発症前 1 週間の食品喫食歴に関する聞き取り調査を行っている。CDC は、患者が共通に喫食した食品 (ロメインレタスなどの葉物野菜を含む) の有無を調べるため、情報収集を続けている。米国では感染源がまだ特定されていないため、CDC は特定の食品の喫食を避けるよう推奨することはできない。

(食品安全情報 (微生物) 本号、No.26 / 2017 (2017.12.20) PHAC 記事参照)

2. ペット店の子犬との接触に関連して複数州にわたり発生している多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイク (2017 年 12 月 13 日付更新情報)

Multistate Outbreak of Multidrug-Resistant *Campylobacter* Infections Linked to Contact with Pet Store Puppies

December 13, 2017

<https://www.cdc.gov/campylobacter/outbreaks/puppies-9-17/index.html>

患者数	患者発生州数	入院患者数	死亡者数
97 人	17 州	22 人	0 人

○米国疾病予防管理センター（US CDC）、複数州の公衆衛生当局および米国農務省動植物衛生検査局（USDA APHIS）は、複数州にわたり発生している多剤耐性カンピロバクター感染アウトブレイクを調査している。

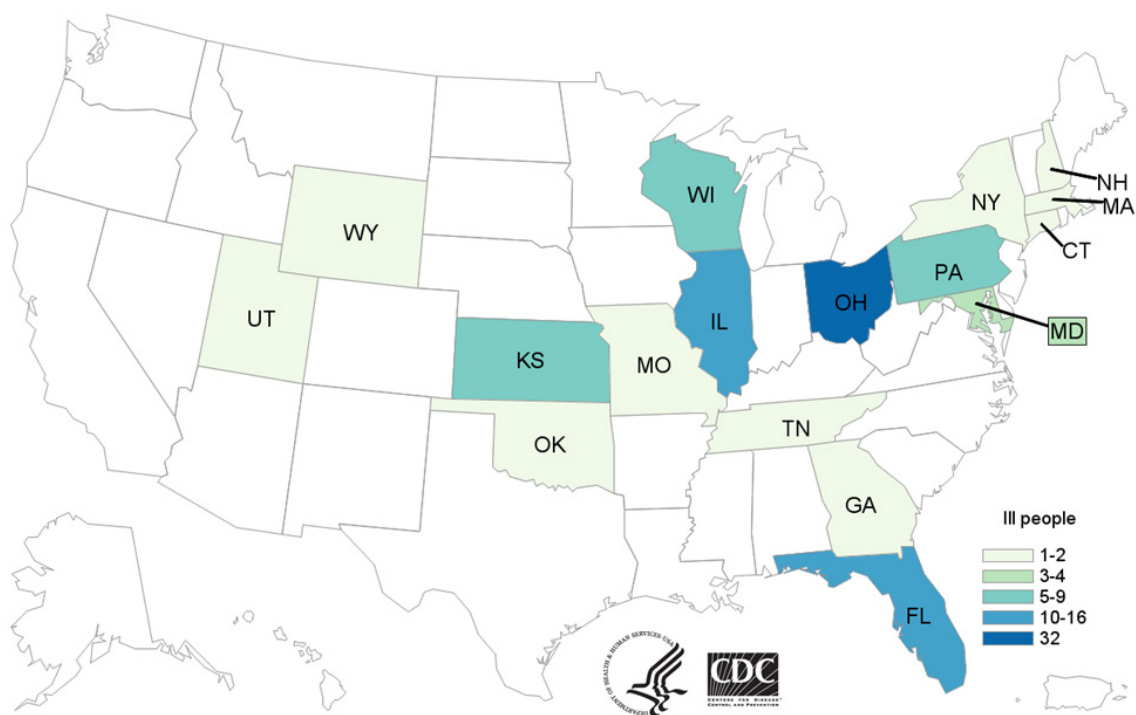
○本アウトブレイクの患者の臨床検体から分離されたカンピロバクター株は、広く推奨される第一選択の抗生物質に耐性である。これは、本アウトブレイク株による感染症が、カンピロバクター症の治療に通常処方される抗生物質では治療が困難である可能性があることを意味する。

○2017年10月30日付の更新情報以降、11州から新たに患者計30人が報告された。直近の患者の発症日は2017年10月23日である。

○2017年12月12日までに、本アウトブレイクに関連して、検査機関確定患者またはカンピロバクター症に一致する症状を呈した患者が17州から計97人報告されている（図）。

- ・ 情報が得られた患者91人のうち22人(24%)が入院した。死亡者は報告されていない。
- ・ 患者の発症日は2016年6月17日～2017年10月23日である。

図：ペット店の子犬に関連したカンピロバクター症患者（2017年12月12日までに報告された居住州別患者数、n=97）



○疫学調査および検査機関での検査の結果は、ペット店チェーンであるペットランド（Petland）の店舗で販売された子犬との接触が本アウトブレイクの感染源である可能性が高いことを示している。

- ・聞き取り調査に回答した患者 89 人のうち 87 人（98%）が、発症の前週に子犬と接触したことを報告した。また、聞き取り調査に回答した 88 人のうち 79 人（90%）が、ペットランドの子犬と接触したこと、または、ペットランドの子犬との接触後に発症した人と接触したことを報告した。患者のうち 21 人がペットランドの従業員である。
- ・全ゲノムシーケンシング（WGS）解析の結果は、患者由来とペットランドの子犬由来のカンピロバクター分離株が遺伝学的に相互に近縁であることを示した。この結果は、患者がペットランドの子犬との接触によって感染したことを裏付けるさらなるエビデンスとなっている。

○抗生物質耐性は、患者の入院、血流感染または治療不成功のリスクの上昇に関連する可能性がある。WGS 解析により、本アウトブレイクの患者 35 人および子犬 9 匹に由来する分離株の多くで、複数の抗菌剤耐性遺伝子および耐性に関連した遺伝子変異が確認された。この結果は、本アウトブレイクの患者 5 人と子犬 7 匹に由来する分離株について、CDC の全米抗菌剤耐性モニタリングシステム（NARMS）の検査機関が標準的な抗生物質感受性試験法により実施した検査の結果と一致している。これら 12 株は、アジスロマイシン、シブ

ロフロキサシン、クリンダマイシン、エリスロマイシン、ナリジクス酸、テリスロマイシンおよびテトラサイクリンに耐性であった。また、これら 12 株のうち、10 株はゲンタマイシン、2 株はフロルフェニコールにも耐性であった。

○子犬や成犬を取り扱う際には以下のような感染予防方法を実践すべきである。

- ・ 子犬やその糞に接触した後は、必ず石鹸と水ですぐに手指を洗う。
- ・ 飼い犬の健康維持と疾患予防について獣医師に相談する。

(食品安全情報 (微生物) No.24 / 2017 (2017.11.22)、No.21 / 2017 (2017.10.11) US CDC 記事参照)

● カナダ公衆衛生局 (PHAC: Public Health Agency of Canada)

<http://www.phac-aspc.gc.ca/>

公衆衛生通知：ロメインレタスに関連して発生している大腸菌感染アウトブレイク (2017年12月28日付更新情報)

Public Health Notice – Outbreak of *E. coli* infections linked to romaine lettuce

December 28, 2017 - Update

<https://www.canada.ca/en/public-health/services/public-health-notices/2017/public-health-notice-outbreak-e-coli-infections-linked-romaine-lettuce.html>

カナダ公衆衛生局 (PHAC) は、複数州の公衆衛生当局、カナダ食品検査庁 (CFIA) およびカナダ保健省 (Health Canada) と協力し、カナダ東部の 5 州にわたり発生している大腸菌 O157 感染アウトブレイクを調査している。これまでに得られた調査結果により、感染源としてロメインレタスへの曝露が特定されたが、レタスの汚染の原因はまだ特定されていない。ロメインレタスに関連する患者が引き続き PHAC に報告されていることから、本アウトブレイクは現在も続いていると考えられる。患者の報告が続いていることは、汚染されたロメインレタスが現在も市場 (レストラン、食料品店、その他の食品提供施設を含む) に流通していることを示している。調査で得られたエビデンスは、ロメインレタスの喫食には大腸菌感染のリスクが引き続き存在することを示唆している。

カナダ東部の諸州では大腸菌感染のリスクが引き続き存在することから、PHAC は、オンタリオ、ケベック、ニューブランズウィック、ノバスコシアおよびニューファンドランド・ラブラドール各州の住民に対し、本アウトブレイクに関して汚染源などのさらに詳細な情報が得られるまで、ロメインレタス以外の種類のレタスを喫食するよう助言してい

る。

アウトブレイク調査の概要

現在調査中の患者は東部 5 州の計 41 人で、州別の内訳は、オンタリオ（8 人）、ケベック（14）、ニューブランズウィック（5）、ノバスコシア（1）およびニューファンドランド・ラブラドール（13）である。患者の発症日は 2017 年 11～12 月初旬である。17 人が入院し、1 人が死亡した。患者の年齢範囲は 3～85 歳で、患者の 73%が女性である。

患者の多くが、発症前にロメインレタスを喫食したことを報告した。患者は、家庭、レストラン、ファストフード店で、また食料品店で購入した調理済みサラダによりロメインレタスを喫食していた。CFIA は、患者が曝露したロメインレタスの由来を特定するために複数州の公衆衛生当局と協力しており、汚染源調査のためにロメインレタスの大腸菌汚染検査を行っている。現時点では、カナダ西部の諸州で本アウトブレイクの患者が発生していることを示すエビデンスはない。

米国疾病予防管理センター（US CDC）は、米国の複数州にわたり発生している大腸菌 O157:H7 感染アウトブレイクの大腸菌株が本アウトブレイク株と遺伝学的に近縁であると発表した。

（食品安全情報（微生物）本号 US CDC 記事、No.26 / 2017（2017.12.20）PHAC 記事参照）

● 欧州委員会健康・食品安全総局（EC DG-SANTE: Directorate-General for Health and Food Safety）

http://ec.europa.eu/dgs/health_food-safety/index_en.htm

食品および飼料に関する早期警告システム（RASFF : Rapid Alert System for Food and Feed）

http://ec.europa.eu/food/safety/rasff_en

RASFF Portal Database

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/>

Notifications list

<https://webgate.ec.europa.eu/rasff-window/portal/?event=searchResultList>

2017年12月18日～29日の主な通知内容

警報通知 (Alert Notification)

フランス産の生乳チーズの腸管病原性大腸菌 (O26:H11、*stx*⁻、*eae*⁺)、フランス産ゴートチーズのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、フランス産活ザルガイ (*Cerastoderma* spp.) の大腸菌 (3,500 MPN/100g)、ドイツ産冷凍有機レッドフルーツ (red fruit) のノロウイルス (25g 検体陽性)、ポーランド産冷凍鶏手羽肉マリネのサルモネラ (25g 検体 1/5 陽性)、フランス産乳児用調製乳のサルモネラの疑い、ポーランド産冷蔵生ソーセージのサルモネラ (10g 検体陽性)、ベルギー産冷凍鶏肉ドネルケバブのサルモネラ (25g 検体陽性)、フランス産各種冷蔵パイ生地製品のリステリア (*L. monocytogenes*、<10 CFU/g)、スウェーデン産乾燥牛肉のボツリヌス毒素の疑いなど。

注意喚起情報 (Information for Attention)

リトアニア産ひき肉製品のサルモネラ (*S. Infantis* と *S. Typhimurium*、ともに 25g 検体陽性)、フランス産活カキのノロウイルスと食品由来アウトブレイク、フランス産豚肉・馬肉サビロイ (ソーセージ) のリステリア (*L. monocytogenes*、180 CFU/g)、韓国産エノキダケ (オランダ経由) のリステリア (*L. monocytogenes*、900 CFU/g)、ドイツ産菜種搾油粕のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、スペイン産活イガイ (イタリアで包装) のサルモネラ (25g 検体陽性)、トルコ産野菜缶詰のボツリヌス菌の疑い、セルビア産冷凍ラズベリーのノロウイルス (25g 検体陽性)、ドイツ産冷蔵鶏むね肉フライ (スパイス付) のリステリア (*L. monocytogenes*、4.5x10E3 CFU/g) など。

フォローアップ喚起情報 (Information for follow-up)

鶏肉春巻きのリステリア (*L. monocytogenes*、25g 検体陽性)、ドイツ産豚肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産乾燥大豆搾油粕のサルモネラ (*S. Lexington*、25g 検体陽性)、スペイン産加工動物タンパク質のサルモネラ (*S. Senftenberg*、25g 検体陽性)、ドイツ産大豆ミールのサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、イタリア産大豆ミール (オーストリア経由) のサルモネラ (*S. Agona*、25g 検体陽性)、スペイン産ドライイチジク (米粉付き) の昆虫 (幼虫)、イタリア産有機ヒマワリ搾油粕のサルモネラ (*S. Livingstone*、25g 検体陽性)、スペイン産家禽ミールの腸内細菌 (600 CFU/g) など。

通関拒否通知 (Border Rejection)

アラブ首長国連邦産有機ゴマ種子のサルモネラ (25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍塩漬け鶏むね肉半身のサルモネラ (*S. Heidelberg*、25g 検体陽性)、アルゼンチン産冷蔵牛肉 (骨なし) の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx*₂⁺、*eae*⁻)、アルゼンチン産冷蔵牛肉 (骨なし) の志賀毒素産生性大腸菌 (O26、*stx*₁⁺、*eae*⁺)、ブラジル産鶏むね肉のサルモネラ (25g 検体陽性)、ベトナム産塩漬けマッシュルームのサルモネラ (25g 検体陽性)、ニュージーランド産ラム

ミールの腸内細菌 (12,790 CFU/g)、ナイジェリア産ゴマ種子のサルモネラ (*S. Lattenkamp*、25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍鶏むね肉半身のサルモネラ (*S. Typhimurium*、25g 検体陽性)、ブラジル産冷凍牛肉 (骨なし) の志賀毒素産生性大腸菌 (*stx1+*、25g 検体陽性) など。

● 欧州食品安全機関 (EFSA: European Food Safety Authority)

<http://www.efsa.europa.eu>

伝達性海綿状脳症 (TSE) の 2016 年のサーベイランス結果に関する欧州連合 (EU) 要約報告書

The European Union summary report on surveillance for the presence of transmissible spongiform encephalopathies (TSE) in 2016

EFSA Journal 2017;15(11):5069

30 November 2017

<http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.2903/j.efsa.2017.5069/epdf> (報告書 PDF)

<http://www.efsa.europa.eu/en/efsajournal/pub/5069>

本報告書は、2016 年に EC 規則 (Regulation (EC) 999/2001) に従い欧州連合 (EU) 加盟各国で実施され、またアイスランド、ノルウェー、およびスイスでも実施された、ウシ科動物、ヒツジ、ヤギ、シカ、およびその他の動物種における伝達性海綿状脳症 (TSE) サーベイランス、ならびにヒツジにおける遺伝子型タイピングの結果について記載したものである。

2016 年は、EU 域内で 1,352,585 頭 (2015 年より 5%減少) のウシ科動物について検査が実施された。英国は初めて牛海綿状脳症 (BSE) の症例を報告しなかったが、フランスが定型 BSE 症例 1 例と非定型 (H 型) 症例 3 例、およびスペインが非定型 (H 型) 症例 1 例を報告した。定型 BSE 症例のウシは 2001 年に EU 全域で飼料全面規制が施行された後に生まれていた (BARB 症例)。2016 年は、ヒツジ 286,351 頭 (2015 年より 5%減少)、ヤギ 110,832 頭 (2015 年より 11%減少) の検査が行われた。スクレイピー症例は、ヒツジの場合、加盟 20 カ国から 685 例が、ヤギの場合、加盟 9 カ国から 634 例が報告された。ヒツジのスクレイピー症例はまた、アイスランドおよびノルウェーから計 25 例が報告された。EU レベルでは、小型反芻動物でのスクレイピー発生率はほぼ一定の状態が続き、定型スクレイピー症例 (1,175 例) の方が非定型スクレイピー症例 (135 例) より頻繁に報告された。ヒツジの定型スクレイピー症例の 97.2%が感受性グループの遺伝子型を有するヒツジで発生しており、一方、無作為抽出されたヒツジの 26.6%が感受性グループの遺伝子型を有していた (キプロスのヒツジを除く)。

2016 年は、ノルウェーがシカの慢性消耗病症例 5 例（野生のトナカイ 3 例、ヘラジカ 2 例）を報告した。欧州でこの疾患が報告されたのはこれが初めてであった。シカの TSE 検査は、加盟 7 カ国で計 2,712 頭（90%がルーマニア）について実施され、結果はすべて陰性であった。反芻動物以外の動物種については、加盟 4 カ国で計 490 頭の TSE 検査が行われ、結果はすべて陰性であった。

（関連記事）

EU では伝達性海綿状脳症（TSE）の発生率が低下していることを EFSA が確認

Low incidence of TSEs in the EU, EFSA confirms

30 November 2017

<http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/171130>

● 英国食品基準庁（UK FSA: Food Standards Agency, UK）

<http://www.food.gov.uk/>

食品衛生ランク付け方式が英国の食品安全システム近代化計画の中心

Food Hygiene Rating Scheme central to modernisation plans

13 September 2017

<https://www.food.gov.uk/news-updates/news/2017/16524/food-hygiene-rating-scheme-central-to-modernisation-plans>

2010 年 11 月に、イングランド、ウェールズおよび北アイルランドの全地方自治体に食品衛生ランク付け方式（FHRS）が導入され、運用が開始された。FHRS は英国食品基準庁（UK FSA）と地方自治体とが協力して主導する制度で、地方自治体の食品安全担当官による立ち入り検査結果にもとづき、食品提供施設の衛生状況に関する情報を消費者に提供している。

FSA の Hancock 長官は、FHRS によるランク付けの結果の店頭への表示をイングランドでも義務化する意向であることを改めて強調した。これは、ウェールズおよび北アイルランドでランクの店頭表示の義務化が成果を上げていることを受けたものである。

現在、FHRS はイングランド全域で実施されている。FHRS は、消費者や食品事業者が食品提供施設における衛生規則の遵守状況を知ることができる簡便な方法である。

ウェールズおよび北アイルランドでは、すでにランクの店頭表示が義務付けられている。FSA は、表示の義務化の効果について確かなエビデンスを入手している。食品衛生に真摯に取り組んでいる食品提供施設を容易に判別できるため、消費者はそのような施設に足を

運ぶ。これは、衛生状況が良好な食品事業者はより多くの顧客を得られることを意味する。ランクが劣る食品事業者にとっては改善の動機になる。

最近、ランク付け方式から得られるこのような利益をイングランドでも実現したいという意見が地方自治体協議会（LGA : Local Government Association）から寄せられており、FSA はこれを歓迎し同意している。すなわち、ランクの店頭表示の義務化は、現在の規制システムの大幅な改善のための必須の要素であると認識されている。

● デンマーク国立血清学研究所（SSI: Statens Serum Institut）

<http://www.ssi.dk>

デンマークにおける 2014～2016 年の赤痢の発生状況

Shigellosis 2014-2016

EPI-NEWS, No 48 - 2017

29 November 2017

<https://www.ssi.dk/English/News/EPI-NEWS/2017/No%2048%20-%202017.aspx>

赤痢は *Shigella* 属に属する 4 菌種（*Shigella dysenteriae*、*S. boydii*、*S. flexneri*、*S. sonnei*）によって引き起こされる。赤痢菌はヒトのみで見られ、主に汚染された食品や水を介してヒトからヒトへ伝播する。赤痢菌を検出した臨床微生物検査部門はデンマーク国立血清学研究所（SSI）へ届け出義務があり、赤痢と診断した医師には SSI およびデンマーク患者安全庁（Danish Patient Safety Authority）への届け出義務がある。赤痢患者の届け出数は近年顕著に増加している（表）。

表：赤痢の届け出経路別の届け出数（2014～2016 年）

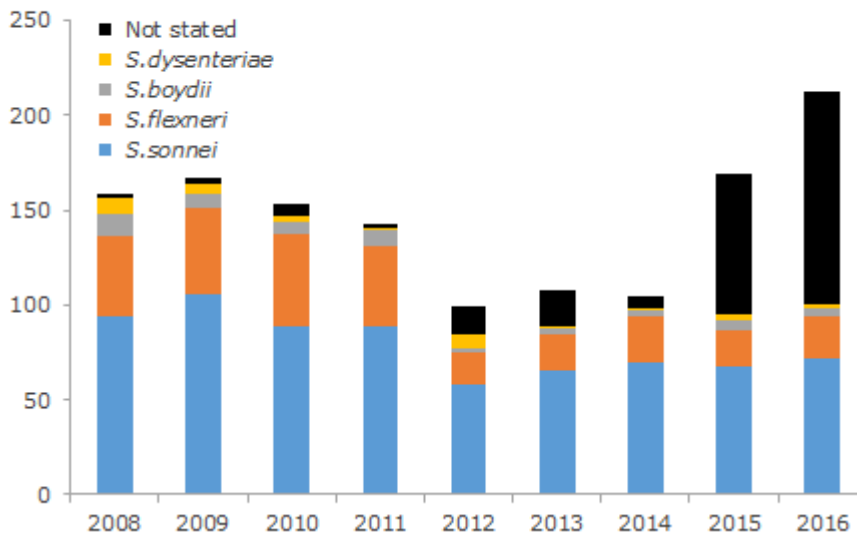
届け出の経路	2014 年	2015 年	2016 年	計
検査部門および医師の両者による届け出	66	87	112	265
検査部門のみによる届け出	39	83	100	222
医師のみによる届け出	10	30	64	104
計	115	200	276	591

赤痢の届け出数は 2014～2016 年に 2 倍以上（115 人から 276 人）に増加した。この増

加は、一部の臨床微生物検査部門で赤痢の診断に便検体中の DNA を標的とする PCR 法が用いられるようになったことに起因する可能性がある。この PCR 法は、*Shigella* 属の 4 種の赤痢菌および腸管侵入性大腸菌 (EIEC) に特徴的な *ipaH* 遺伝子を検出するようデザインされている。この手法は培養法より感度が高いが、追加検査を行わなければ 2 種類の細菌グループを区別することができない。さらに、*ipaH* 遺伝子が検出された便検体の多くにおいて *ipaH* 遺伝子陽性の細菌株を検出することは困難または不可能であることが確認されている。図 1 において、「菌種不明 (Not stated)」に分類される株が近年増加しているが、その増加の大半は PCR 法により検出された赤痢によるものと考えられる。

図 1 : デンマーク国立血清学研究所 (SSI) に届け出があった赤痢菌株数 (菌種別、2008～2016 年、n=1,315)

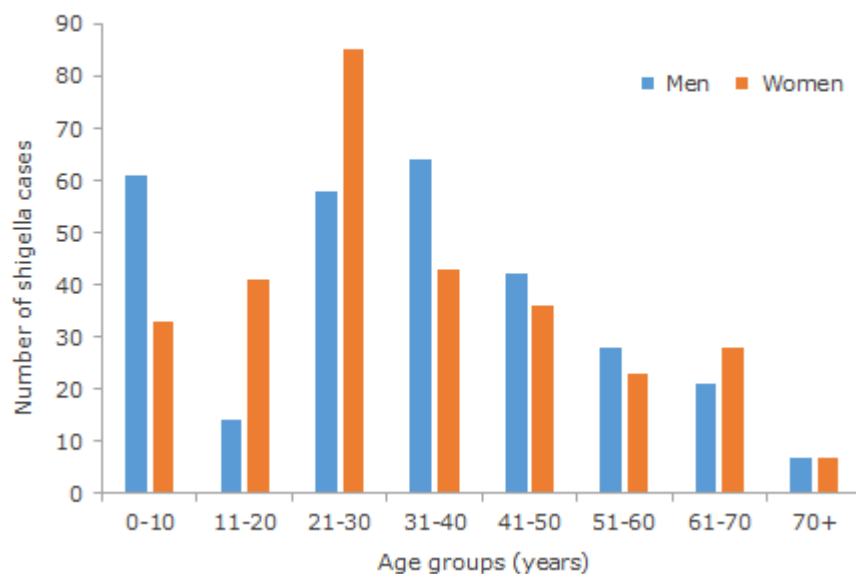
Figure 1. Number of shigella isolates notified with the SSI laboratory, by shigella species, 2008-2016 (n = 1,315)



2014～2016 年には計 591 人の赤痢患者が SSI に報告された。患者の年齢範囲は 0～86 歳、年齢中央値は 31 歳で、患者の半数が女性であった (図 2)。

図 2：赤痢患者届け出数（年齢層および性別、2014～2016 年、n=591）

Figure 2. Notified cases of shigellosis, by age and sex, 2014-2016 (n = 591)



感染国

2014～2016年に報告された赤痢患者計 591 人のうち 474 人について感染国の情報が明らかになった。このうち 91 人（19%）はデンマーク国内感染、383 人（81%）は国外感染であった。感染報告が多かった国は、インド（11%）、パキスタン（7%）、エジプト（7%）、およびキューバ（4%）であった。国外旅行関連の患者 383 人のうち 281 人について渡航目的が明らかになった。大半（77%）は観光旅行または商用が目的で、残りは国外の家族の家に滞在（21%）、国外駐在（1%）が目的で、1%はデンマーク入国前に感染した難民または外国人観光客であった。

アウトブレイク

2014～2016年には食品由来赤痢アウトブレイクが 1 件報告された。このアウトブレイクは 2014 年 3 月に食堂で発生し、患者計 5 人が報告され、うち 3 人が *S. sonnei* 陽性であった。事前のブラッシング処理（湯通し等）なしに生で供されたケニア産サヤエンドウが感染源として疑われた。

また、2014 年 2 月にはコペンハーゲンの幼稚園でアウトブレイクが発生し、園児 4 人から *S. sonnei* が検出された。このアウトブレイクでは、アフリカ旅行中に感染した初発患者からヒト-ヒト感染により伝播が起きたと考えられた。

全ゲノムシーケンシング（WGS）解析により、患者計 7 人が含まれる別の 1 件のアウトブレイクが 2015 年 11～12 月に発生したことが明らかになった。このアウトブレイクの患者は全員がコペンハーゲン在住の 23～49 歳の男性で、男性間の性的接触により感染が広

がったと考えられた。

これらのアウトブレイクの他に、医師の届け出により、2～3人の患者からなる計18の赤痢患者クラスターが特定された。これらのクラスターは主に、国外への家族旅行後に発症した家族患者からなっていた。

● オランダ国立公衆衛生環境研究所 (RIVM)

<http://www.rivm.nl/>

動物の糞尿の微生物学的健康リスクについての探索的研究

Exploration of the microbiological health risks of manure

2017-10-30

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0100.pdf> (報告書 PDF、オランダ語)

<http://www.rivm.nl/bibliotheek/rapporten/2017-0100.html>

本文献レビューは、動物の糞尿を介して拡散する病原体への曝露に関連する健康リスクを調査したものである。動物の糞尿に由来する病原体にヒトが水および空気を介して曝露することによる健康リスクについては、関連する論文が非常に少なかった。空気を介した曝露による感染のリスクは、表層水を介した曝露よりも小さいと考えられる。文献レビューで取り上げられた論文には、動物の糞尿に高頻度に存在する空気媒介性および水媒介性の病原体が記載されている。

堆肥化、発酵および生物学的浄化などの工程により糞尿を処理することで糞尿中の病原体の量は減少する。減少の程度は、処理時の温度、湿度、酸素含有量などの条件に大きく依存している。処理時間もまた非常に重要な要素である。糞尿の処理工程は、余剰の糞尿の加工や糞尿由来新製品の製造に適用され、製品の輸出につながる可能性もある。

本研究では、ブタおよびウシの糞尿中の数種類の病原菌について文献レビューが行われた。これらの病原菌が表層水および空気中に侵入する程度、およびそれらのヒト健康リスクについて調査が行われた。この探索的研究では、大腸菌病原性変異株および既知の薬剤耐性菌であるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に焦点が当てられた。その理由として、これらの細菌がそれぞれ水中および空気中で高い生残率を示すことがあげられる。

潜在的な健康リスクを評価するうえで、糞尿から環境への病原体の排出、糞尿中での病原体の増殖もしくは不活化、および曝露の程度についての理解が重要である。

● ProMED-mail

<http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1000>

コレラ、下痢、赤痢最新情報

Cholera, diarrhea & dysentery update 2018 (01) & 2017 (137) (136)

3 January 2018 & 27, 24 December 2017

コレラ (AWD : 急性水様性下痢)

国名	報告日	発生場所	期間	患者数	死亡者数
アンゴラ	1/1	ウイジェ州	直前 1 週間		5
ザンビア	1/1	ルサカ市	2017 年 10 月～	2,000	42
コンゴ民主共和国	12/28	キンシャサ市 Camp Luka(中央コンゴ州から伝播)	2017/11/27～	123	10
		キンシャサ	2017 年 1 月～	444	38
ケニア	12/29	Meru 郡		20～	3
			2017 年 6 月～	約 336	
ケニア	12/26	ブシア郡		29～ (うち 4 人陽性)	5
ケニア	12/11	全 47 郡中 20 郡	2017/1/1 ～11/29	(死亡者含む高度疑い) 3,967 (うち確定 596)	76
ソマリア	12/24	52 地区	2017 年 1～11 月	(死亡者含む) 78,784	1,159
			2017 年 8～11 月		0
インド	12/31	カルナタカ州	2017/12/29	約 30	2
イエメン	12/25		2017/4/27 ～12/25	1,006,920	2,230
			直前 2 週間	23,434 1,674/日	
			上記期間前の 2 週間	20,950	

ナイジェ リア	12/20	ナサラワ州 Toto			4～
マラウイ	12/19	カロンガ県	4 週間	51	2

イエメンのコレラ（2017年の累積患者数）

日付	累積患者数	累積死亡者数
2017/9/8	635,752	2,062
2017/9/17	686,783	2,090
2017/9/20	704,454	2,103
2017/9/24	738,212	2,117
2017/9/27	753,098	2,122
2017/9/29	767,524	2,127
2017/10/2	777,229	2,134
2017/10/4	791,551	2,142
2017/10/6	800,626	2,151
2017/10/11	815,000	2,156
2017/10/16	841,906	2,167
2017/10/25	862,858	2,177
2017/10/29	884,368	2,184
2017/10/31	890,017	2,185
2017/11/7	910,996	2,195
2017/11/14	926,187	2,200
2017/11/28	962,536	2,219
2017/12/11	983,486	2,225
2017/12/25	1,006,920	2,230

（2017年8月以前のデータについては食品安全情報（微生物）No.19 / 2017を参照）

食品微生物情報

連絡先：安全情報部第二室